

〔平成21年7月15日（水）〕

美しい森林づくりニュース 〈NO. 139〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～



発信元：林野庁 研究・保全課 森林環境保全班 企画調整係 山口
Tel : 03-3502-8111 (内線6216) 03-3501-3845 (直通) Fax : 03-3502-2887

ご意見、ご質問は → <https://www.contact.maff.go.jp/rinya/form/5dd6.html>

バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

◎ 第3回「美しい森林づくり全国推進会議」(第3報)

「美しい森林づくり全国推進会議」における出席者の発言を報告しているところですが、今回は、亀渕昭信氏(音楽番組ディスクジョッキー、前ニッポン放送社長)、財団法人ボーイスカウト日本連盟、古瀬誠氏(日本の森を守る地方銀行有志の会事務局代表、山陰合同銀行頭取)からの挨拶(要旨)をご紹介します。



(財)ボーイスカウト日本連盟による活動報告の様様

◇亀渕昭信氏挨拶(音楽番組ディスクジョッキー、前ニッポン放送社長)

私もフォレスト・サポーターズのメンバーとして、「美しい森林づくり推進国民運動」がもっと多くの人に理解していただくようにお役に立ちたいと思っている一人であります。

十数年前になりますが、持病の腰痛がひどくなったとき、「腰を治すのには山を歩くのが一番いいよ」とお医者さんに言われ、それから歩くことを始めました。

山に行くと目につくのは、やはり山が荒れている状況です。今、我々がやらなければいけないのは、自然のサイクルを復活させるということではないかと思うのです。山を歩くと、余計な木や枝を切ることを忘れてしまっている。この伐採していない造林地がたくさんありまして、そういうところは、とても目につくわけですが、山が痩せていて、悲鳴があがっているような、そんな感じがします。

前に丹沢に行ったときに、山を持っている方から、30cmの10m位の木について「亀渕さんこれいくらくらいするか知ってますか？」と聞かれ、「1万円くらいするんじゃないですか」と言ったら、「1本300円ですよ」と言われました。木を伐って、下まで下ろして、それを加工して、木材にするのですから、大変な仕事だと思いますが、あまりに安いのでびっ



自然のサイクルを復活させなければならない

くりしました。

農水大臣が、以前「日本の米をもっと食べて下さい」とおっしゃっていましたが、我々は「日本の木をもっともって使ってください」というプロモーションや宣伝が必要じゃないかと思えます。国産木材の需要を喚起して、供給を高めるということが大事じゃないかなというように思えます。

それからもう一つ、植林した森もとても素敵なんですけど、もう一つ、森や林を落葉の広葉樹林に作り変えるということもとっても大事じゃないかと思えます。最近では里山を大切にしようという運動をなさっている方がたくさんいらっしゃいます、僕はとてもいいことだと思うのです。

広葉樹林、雑木林には太陽の陽がさんさんと当たって、そこに動物もいれば、昆虫もいれば、木も生えている。木の実もあって、本当にたくさん自然があるように思えます。人間の生活の原点もあんなところにあるんじゃないかと、思うんです。

それから、植林ばかりしても、決して森が豊かにならないんじゃないか、できる限りこの自然の環境に任せること、これが一番良いことではないかなと思えます。

今やエコの時代ですけども、我々がやらなければいけないことは、自然環境の循環を絶やさないこと。これもまた人間社会と同じだと思えます。我々年配者の役目の一つは、あとに続く若者たちに、自分たちの夢を実現出来るような環境を作ってあげること。それと同じく、自然が循環出来るような環境を意識して作ること、これがとても大事なことじゃないかと思うのです。自然のサイクルを復活させ、自然環境と人間、動物とか生き物、といったものを調和させる、これがエコの原点じゃないかと考えます。

今後も私は、この山歩きを通じて、自然を守っていきたくて思っています。みなさん、これからはがんばっていきましょう。

◇(財)ボーイスカウト日本連盟(全国推進会議構成団体)

私達は、神奈川連盟小田原第2団に所属するベンチャースカウトの山本です。古橋です。船本です。

本日は神奈川での森づくりについてお話しします。

ボーイスカウト神奈川連盟は、平成11年に50周年記念事業として、多くの事業に取り組みました。メインテーマは、「役立つスカウティングを地域から世界へ」でした。その一環として、地球の環境を大切に、整備していく活動の一つとして、各年代のスカウトにふさわしい緑を増やす活動を行うということになり、地域での緑化活動や緑の羽根募金活動、植林活動を行いました。その中のボーイスカウト神奈川の森植林活動は、中高生のスカウトを中心に約300名が参加して行われました。植林地は、丹沢山地の中腹で、水源の



下列り、植林や募金活動を通じて自然を守っていきます

森林約1ヘクタールに、ケヤキやコナラなど計2,700本を私達の先輩が植林しました。この活動を先輩スカウトから引継ぎ、現在私達が育樹活動を行い、今年で10年目の下刈りが行われます。しかし、10年の間に、ニホンジカに苗木が食べられ、また私達も不慣れな山地での下刈りで苗木を伐ってしまい、元気の良い樹木の生えそろうた森林となるには、まだまだ時間がかかりそうです。森林を育てていく難しさをととても強く感じています。これからもボーイスカウトの下刈りや植林や募金活動を通して、いつもお世話になっている自然を守っていきたいと考えます。

さて、私達の団では、ボーイスカウト活動を通して、様々に自然と関わってきました。森は私達に、活動の場所を与えてくれ、森にある薪を拾い火をおこし、森に流れる水を使い炊事をします。キャンプをするときは、できるだけ森を傷つけないように考え、終わった後は、何もなかったかのような状態に去り、自然に対する感謝の気持ちを持って、自然と共存してきました。キャンプでは、森の中で生活を送ります。時には夜になるとナイトゲームやキャンプファイアなどをします。ナイトゲームでは、夜の森の神秘さや静けさの中で、昼とは違う森を堪能します。キャンプファイアでは、歌を歌ったり、ゲームをしたりして大いに楽しみ、火の暖かさを森の暗やみに包まれながら感じます。このような環境の中で、スカウト活動をすることにより、改めて森の大切さ、偉大さを実感することができます。森林と触れ合うことのできる機会が多い中、活動を通し、この森林環境を悪化させることなく、より良い状態にして、未来へ受け継いでいけることができればよいと思います。

◇古瀬誠氏挨拶(日本の森を守る地方銀行有志の会事務局代表、山陰合同銀行頭取)

私どもの銀行業界では、全国地方銀行協会という会が64行あり、その団体の60行が参加(注:現在では全64行参加)いたしまして、日本の森を守る地方銀行有志の会を設立いたしました。活動をこれからまさに始めようとしているところですが、その経緯と目的について少しご報告させていただきます。



“日本の森を守る地方銀行有志の会”をよろしく

そもそも、昨年5月、ちょうど洞爺湖サミットを2ヶ月後に控えた時期でしたが、東京で京都銀行の柏原頭取と会食をし、そこで、環境問題が国の重要な政策課題になっているということ踏まえ、私達の銀行でも何かお役に立てることはないのかという話をしました。その際に全国に山林は存在しておりますので、地域のリーディングカンパニーとして地域に密着した銀行が、それらの運動に取り組みれば、少しは国のお役に立てるのではないかという話をいたしまして、合意をいたしました。

その日のうちに、すぐ持ち帰りまして、私共の銀行の中の事務局で、今後の展開について検討をいたしました。昨年の秋には、8つの銀行の頭取さんにご相談申し上げて、発起人会というものを立ち上げ、そこでさらに検討を加えて、今年になってから、加盟の各銀行にお誘いし、現

在までのところ、60行をもって、第1回の設立総会の開催を予定しているところです。12月には、京都でキックオフイベントを行いまして、全国に広く発信をしたいところ思っているところです。

そもそもなぜそのようなことを思いついたかということですが、私どもの銀行では、3年ほど前から本格的に鳥根県と鳥取県で森林保全活動を熱心に取り組んでおります。県土の70%以上を占めております森林が、大変に荒廃が進んでおる現状とか、あるいは森を守る大切さを広く県民に知っていただきたいということから始めた活動で、2つの切り口でもって具体的に活動しております。

1つは、県内に存在する企業が、森を一定の条件で借り受け、従業員や家族が、実際の森林の保全活動に携わっている。これを広めていきたいところ思ひまして、両県の知事さんにご相談を申し上げまして、鳥取では共生の森、鳥根では企業参加の森づくりという主旨で、制度を立ち上げて頂きました。そこを我々が、両県内で4箇所を借り受けまして、実際に森林の保全の活動を行いますとともに、企業に働きかけを行って、今までのところ鳥取県で12社、鳥根県で5社の企業が熱心に森林の保全の活動に取り組んでおります。さらにまたこれが広がっていく状況にありまして、非常に一定の成果を得ているなど思っています。

そして、もう1つの切り口というのは、市民のNPO法人を始め各団体の活動をサポートすることによって、地域の運動に発展させていくということです。当初お集まりいただいたのは18団体でしたが、私どもで事務所を持ちまして、情報の交換をしながら、広く活動を広げていく作業をやってまいりまして、今ではお陰様で42団体が加盟して森を守ろう山陰ネットワーク会議というの作っているところです。地域に我々がいるから、こういうことが可能なわけで、地域の銀行同士がこういう風な活動をやれば、川下の方から全国的な運動を展開できる可能性があるのではないかと思いますので、地銀の中で進めをいたしているところでございます。

もちろんこれから正式に取り組みますのは、この2つの切り口だけではありません。我々は銀行ですから、例えば、地域の材木を使って住宅ローンを借りられる。借りられた人には、少し金利を優遇して差上げるとか、あるいは、森林の保全活動に熱心な企業には、様々な金融商品を提供することで運動を推進するとか、あるいは地域の森林ビジネスそのものを地域の主体である我々が金融のコントロールタワーになってですね、より地域に根ざしたビジネスのモデルを作るためのお役に立てないかといったような、いろんな切り口で4つぐらいのテーマごとに分科会を作って、具体的な活動をするように準備を進めているところです。



※ 「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。

登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>